

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	こうちけんりつこうちにしようとうがっこう				②所在都道府県	高知県
27～31	①学校名	高知県立高知西高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	生徒数 836 (普通科 716、英語科 120)	
	普通科	243	239	40	522		
英語科	41	41	38	120			
⑥研究開発構想名	「食を活かした地域創生」をテーマにしたグローバル人材の育成						
⑦研究開発の概要	食に関する課題や地域活性化事例等とその要因を収集・分析し、グローバルな視点から地域活性化に繋げるモデルを提案する取組を通して、グローバル人材を育成する。国内・海外でのインターンシップ等の高負荷の活動を課し、日本語と英語の探究活動を統合させるためのカリキュラムを実施する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>高知県が官民あげて取り組んでいる「食を活かした地域創生」をテーマに、グローバルな視点から様々な事例を学び、地域が持つ価値を最大限に活かした、持続可能な「地域創生モデル」を探究する。さらに、地域創生モデルを広く世に展開する過程を通して、高知県のみならず世界のローカルな地域の活性化に貢献することのできる人材を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>【現状】</p> <p>20年に及ぶ姉妹校交流や留学生の派遣受入れなど、本校の国際交流活動は活発である。生徒は何事にも全力で取り組む姿勢を持ち、自主活動や社会貢献活動に対する意識が高い。調理部は、食で企業と連携して商品開発をした実績がある。地元大学と連携した探究型授業の経験の蓄積がある。英語科では英語による探究授業が成果を出しており、進路先選択に大きな影響を与えている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験が少なく、真面目な生徒が多いことから、特に失敗経験が少ない。</li> <li>・近年、留学に挑戦する生徒が減少している。</li> <li>・高大連携による探究型授業は一部の生徒が対象で、学校全体の取組となっていない。</li> <li>・英語による探究型授業は普通科では実施できていない。</li> </ul> <p>【仮説】</p> <p>海外インターンシップなどの高負荷の国際体験活動を通して、グローバルな観点から、地元資源である「食」を活かした地域活性化を考察する活動を行うことで、深い地域理解と日本人としてのアイデンティティを身に付けたグローバル・リーダーを育成することができる。</p> <p>【仮説1】 身近な課題を調査・探究し、課題解決モデルを作成したうえで、課題に対し自己を位置づけ、グローバル展開する探究活動を行うことで、グローバル・リーダーに必要とされる社会性や課題発見力、創造的思考力、課題解決力が身に付く。</p> <p>【仮説2】 英語科で実施している英語による探究型授業を普通科でも行い、仮説1の探究活動と関連付けることで、国際的な場面において世界の人と英語で対等に意見交換をすることができるコミュニケーション能力が身に付く。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「食と地域創生」国際シンポジウムの開催</li> <li>②提言と意見交換ウェブサイト立ち上げ</li> <li>③小中学校でのプレゼンテーション</li> <li>④公開授業、研修会、ワークショップの実施</li> <li>⑤大学・企業・自治体関係者を招いて報告会実施</li> <li>⑥他のSGH校との連携</li> </ul>					
		<p>(1) 課題研究内容</p> <p>地域活性化に様々な強みを持つ「食」を研究対象とし、地域の様々な事例や事例に含まれる課題、成功要因等を収集・分析する。次に、グローバルな観点から地域資源を活用して地域を活性化し、持続可能性の高い「地域創生モデル」を作成し、「食と地域創生」国際シンポジウムを開催して提案を行う等、作成したモデルを広く世界に展開する。</p>					

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p>	<p>この際に、高知大学および高知工科大学、大阪大学、海外の高校や大学、インターンシップを行う海外企業、地元企業や自治体と連携し、研究の深化を図る。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>グローバル教育推進委員会と運営指導委員会で検証評価を行う。</p> <p>ア、グローバルな探究力の育成</p> <p>(1年次) 「グローバル探究Ⅰ」で、「生産流通問題」「六次産業」「食と健康」「食と観光」等のサブテーマの下、小グループで事例を収集し、調査・探究活動を行う。この中で、課題の意義や課題発見の仕方等を学び、課題発見力や創造的思考力を養う。リサーチや課題発見のためのフィールドワークを県内外で行う。</p> <p>また、リーダー性の高い生徒15名を8月にシンガポールに派遣し、現地学生との討論や食の流通調査を行い、グローバルな観点から課題を発見する体験をさせ、以降のグループでの探究活動の核とする。</p> <p>(2年次) 「グローバル探究Ⅱ」で、1年次のサブテーマに基づいて新たなグループを構成し、探究活動を深化させ、それぞれの地域活性化モデルづくりに取り組む。収集した事例から分析した要因等を組み合わせ、グローバルな価値を付加した新たなモデルの作成を通して課題解決力を養成する。</p> <p>海外インターンシップ(オーストラリア15名・シンガポール10名・香港6名・インド3名)で現地企業の食に対する考え方や仕事に関する考え方を直接学び、現地生徒との討論等を通してモデルのブラッシュアップを図り、チャレンジ精神と行動力を養うとともに、以降の探究活動において中心的役割を担わせる。</p> <p>(3年次) 関心・意欲・能力の高い生徒は「グローバル探究Ⅲ」で、課題探究をさらに深化させる。加えて「課題論文」で、自己の位置づけを明確にして課題論文を書き、プレゼンを行う。「グローバル探究Ⅲ」では、リーダーの資質に富む生徒を中心に、地域創生モデルを世界に広く展開する。</p> <p><b>【具体の活動】</b></p> <p>生徒の運営の下、本校の主催で「食と地域創生」国際シンポジウムを開催する。海外連携高校・大学やインターンシップを行った海外企業の方には、実際に来ていただいたり、テレビ会議システムにより参加していただき、その他、地元企業や大学関係者ならびに県内在住外国人に参加を要請する。同時に専用ウェブサイトを立ち上げて世界に向けて提言し、活発な意見交換の場を設ける。また、県内小中学校に出向いて探究授業内容を紹介し、県全体のグローバルな社会意識の早期醸成の一翼を担う。</p> <p>イ、英語活用力の育成(オールイングリッシュで探究活動)</p> <p>(2年次) 「英語表現Ⅱ」「グローバルエデュケーションⅠ」で、「信念／信仰と食」「食とフェアトレード」「言語／習慣と食文化」のサブテーマに基づいて、少人数編成講座で海外とのインターネットでのディスカッション等も活用して英語での探究活動を深化させる。</p> <p>(3年次) 「グローバル探究Ⅲ」の選択生徒は「英語課題探究」「グローバルエデュケーションⅡ」で、自己の位置づけを明らかにして英語課題論文を書き、プレゼンを行う。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>①必要となる教育課程の特例とその適用範囲</p> <p>「社会と情報」を「グローバル探究Ⅱ」(2単位)で代替する。</p> <p>②教育課程の特例に該当しない教育課程の変更</p> <p>国語科の中に学校設定科目「課題論文」(1単位)を置く。また、「総合的な学習の時間」を「グローバル探究Ⅰ」(2単位)と「グローバル探究Ⅲ」(1単位)に名称を変更して教育課程に編成する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>ア、多読・多聴・多書・多話による英語力向上に関する取組</p> <p>イ、国際バカロレア機構の評価方法を参考に、探究の効果的な評価方法の研究</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>ア、長期留学生、短期留学生の積極的な派遣と受入れ</p> <p>イ、グローバル・リーダーを目指す大学生との積極的交流</p>
<p>⑨その他</p>	<p>プログラムを支援するハードの整備・充実</p>